

=プレスリリース=

平成30年5月25日

岩手県内新入社員の職業観と生活観

—平成30年新入社員意識調査より—

標記について概要を取りまとめましたので公表いたします。なお、詳細は機関誌「岩手経済研究」30年6月号に掲載予定です。

<調査要領>

1. 調査時期 平成30年3~4月
2. 調査対象 岩手県内事業所に勤務（予定含む）する新入社員等
3. 調査方法 当研究所主催の新入社員研修会等における無記名アンケート方式
4. 回答者数 合計296
(男性182、女性114)

盛岡市中ノ橋通一丁目2番16号
一般財団法人 岩手経済研究所
理事長 高橋真裕
経営相談部（担当 岩渕）
TEL 019-622-1212

<調査結果の要約>

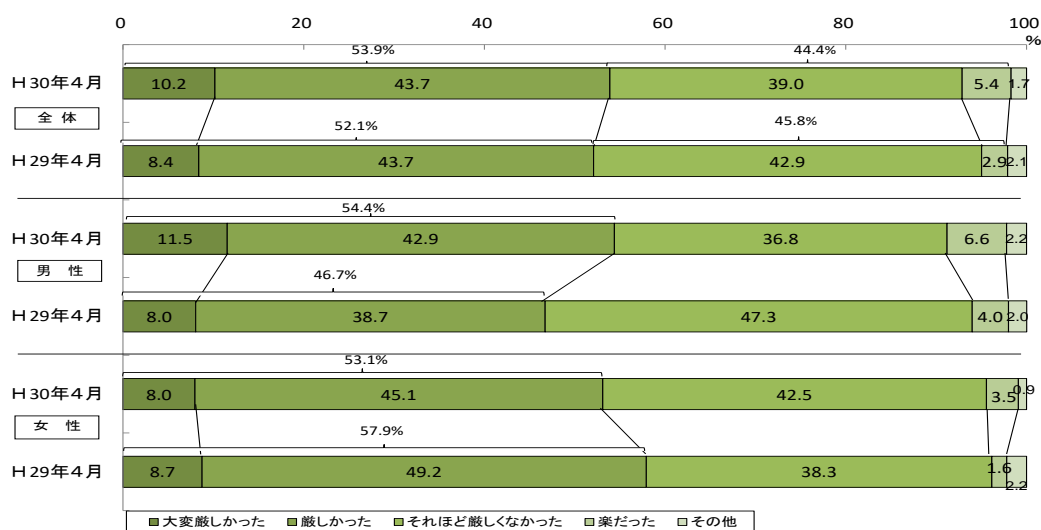
<就職活動の厳しさは？>

○就活の感想は男性で厳しさが強まる

就職活動を振り返った感想は「大変厳しかった」と「厳しかった」（以下「厳しい」）との回答の合計が53.9%（前年比1.8ポイント増）と厳しさが強まった。一方、「それほど厳しくなかった」と「楽だった」との回答の合計は全体で44.4%（同1.4ポイント減）と低下した。

男女別に「厳しい」の割合をみると、男性は54.4%（同7.7ポイント増）と厳しさが強まる一方、女性は53.1%（同4.8ポイント減）と弱まっている。男性は売り手市場のなかでも高校や専門学校などの卒業生で厳しいと感じた人が前年より多く、希望の地域や業種などに就職できなかったケースが増加したものとみられる。

就職活動を振り返った感想

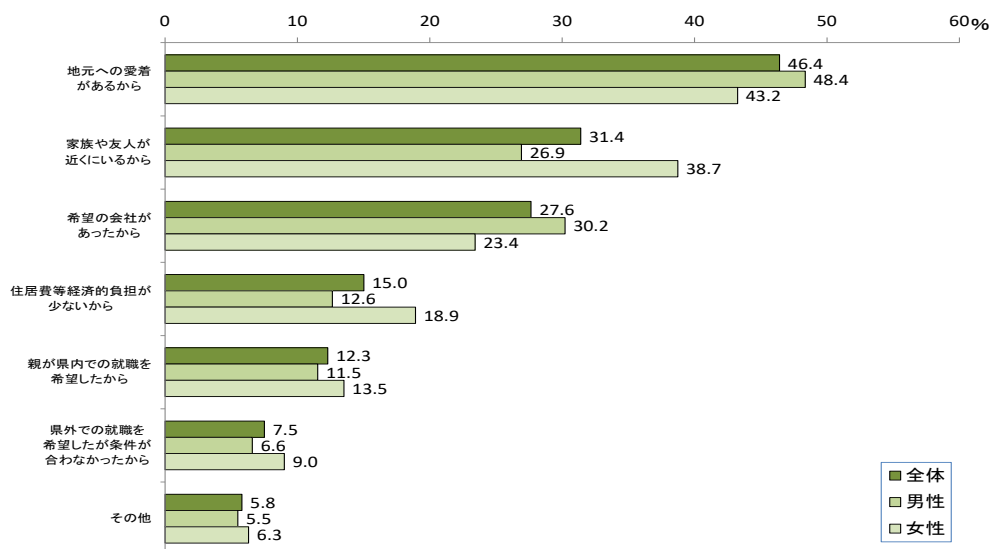


<就職先として県内企業を選んだ理由は？>

○女性は家族や友人の存在の割合が上昇

就職先として県内企業を選んだ理由は「地元への愛着があるから」が46.4%（同1.4ポイント減）、「家族や友人が近くにいるから」31.4%（同2.8ポイント増）、「希望の会社があったから」27.6%（同3.4ポイント減）の順となり、このうち女性では「希望の会社があったから」が前年比6.5ポイント低下し、「家族や友人が近くにいるから」が8.3ポイント上昇した。

就職先として県内企業を選んだ理由（2つ以内の複数回答）



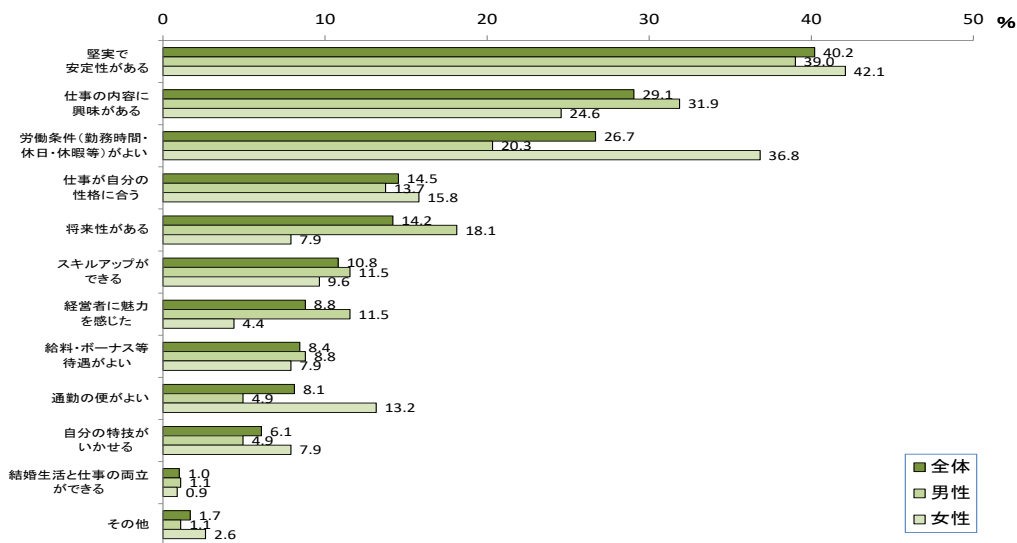
1. 職業観

<勤務先選択の理由>

○堅実性・安定性と仕事の内容や労働条件を重視

勤務先を選んだ理由は「会社が堅実で安定性がある」が40.2%（同4.6ポイント増）、以下「仕事の内容に興味がある」29.1%（同1.0ポイント減）、「労働条件（勤務時間・休日・休暇等）がよい」26.7%（同7.3ポイント増）、「仕事が自分の性格に合う」14.5%（同2.8ポイント減）、「将来性がある」14.2%（同3.6ポイント減）などの順となった。前年と比べ割合が最も増加した項目は「労働条件がよい」で、特に女性は36.8%（同16.6ポイント増）と大きな伸びを示している。

今の勤務先を選んだ理由（2つ以内の複数回答）



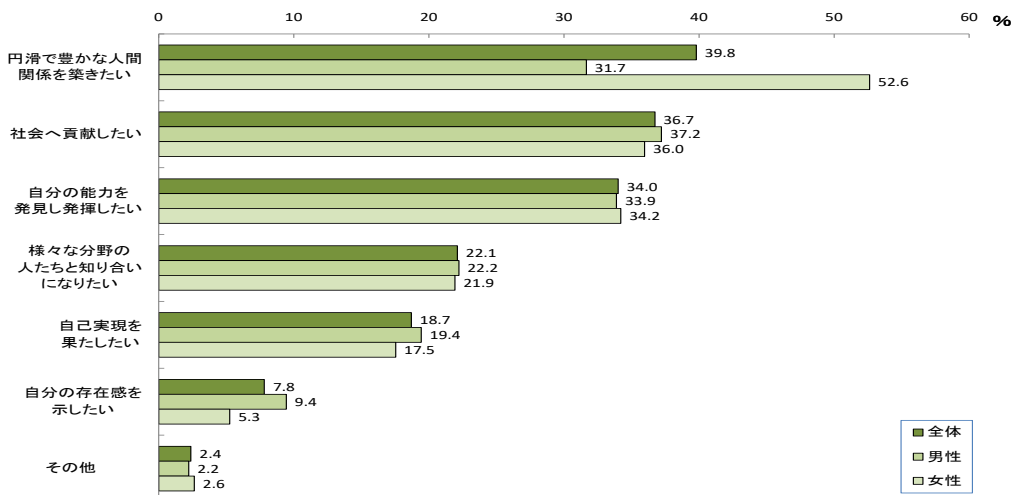
<社会人生活に期待すること>

○豊かな人間関係と社会貢献、能力発揮

社会人生活に期待することは「円滑で豊かな人間関係を築きたい」39.8%（同2.4ポイント増）、「社会へ貢献したい」36.7%（同0.7ポイント減）、「自分の能力を発見し発揮したい」34.0%（同2.3ポイント減）の上位3項目が突出している。

「円滑な人間関係」は女性では過半数を超えているほか男性よりも20.9ポイント高く、男女差が大きなものとなっている。一方、「社会貢献」と「自分の能力の発揮」は男性・女性のいずれも3割を超える結果となった。

社会人生活に期待すること（2つ以内の複数回答）

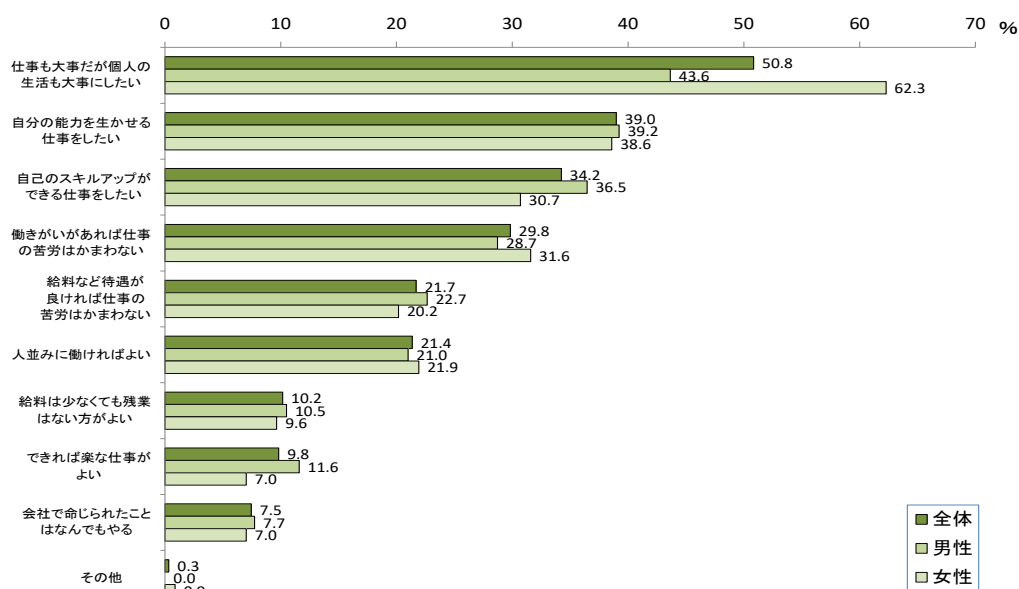


<働くことについての考え方>

○私生活とのバランスと自分の能力の発揮

働くことに対する考え方については「仕事も大事だが個人の生活も大事にしたい」が50.8%（同0.1ポイント減）と最も高く、以下「自分の能力を生かせる仕事をしたい」が39.0%（同2.8ポイント減）、「自己のスキルアップができる仕事をしたい」が34.2%（同3.4ポイント増）となった。最も多かった「仕事も大事だが個人の生活も大事にしたい」は女性では6割を超えているほか男性より18.7ポイント高く、男女差が大きいものとなっている。

働くことについての考え方（3つ以内の複数回答）

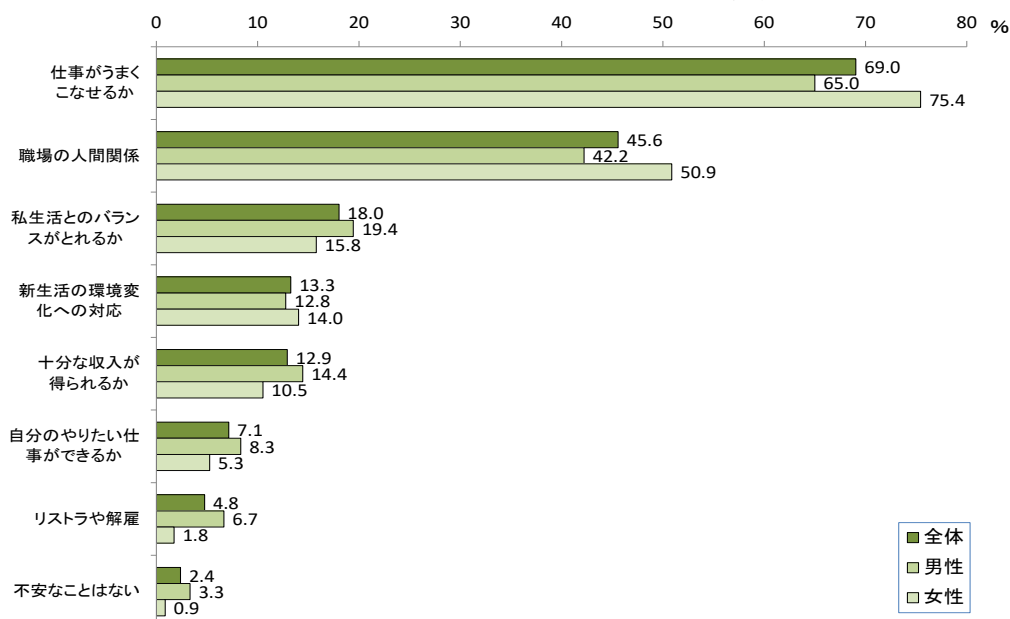


<社会人生活で不安を感じること>

○仕事がこなせるかと人間関係が上位

社会人生活で不安を感じることは「仕事がうまくこなせるか」の69.0%（同3.0ポイント増）と「職場の人間関係」の45.6%（同1.7ポイント増）が男女ともに突出している。

社会人生活で不安を感じること（2つ以内の複数回答）

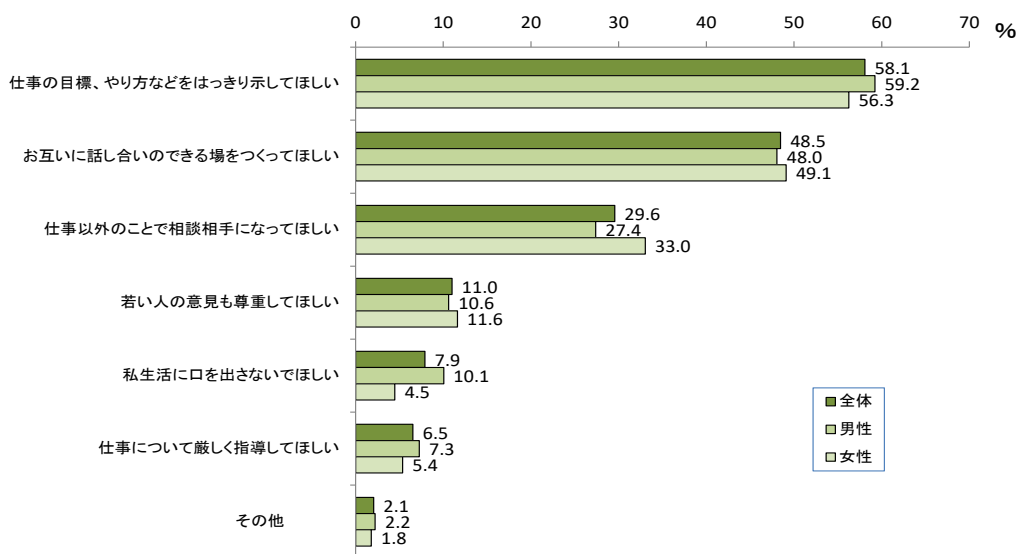


<上司・先輩に望むこと>

○仕事のやり方の明確な指示を望む

上司・先輩に望むことは「仕事の目標、やり方などをはっきり示してほしい」が58.1%（同5.8ポイント減）と最も高く、以下「お互いに話し合いのできる場を作ってほしい」48.5%（同7.0ポイント増）、「仕事以外のことで相談相手になってほしい」29.6%（同5.9ポイント増）となった。前項で上位となった「仕事への不安」に対しては明確な指示を望み、「人間関係の不安」に対しては話し合いや相談などコミュニケーションを期待する回答となっている。

上司・先輩に望むこと（2つ以内の複数回答）

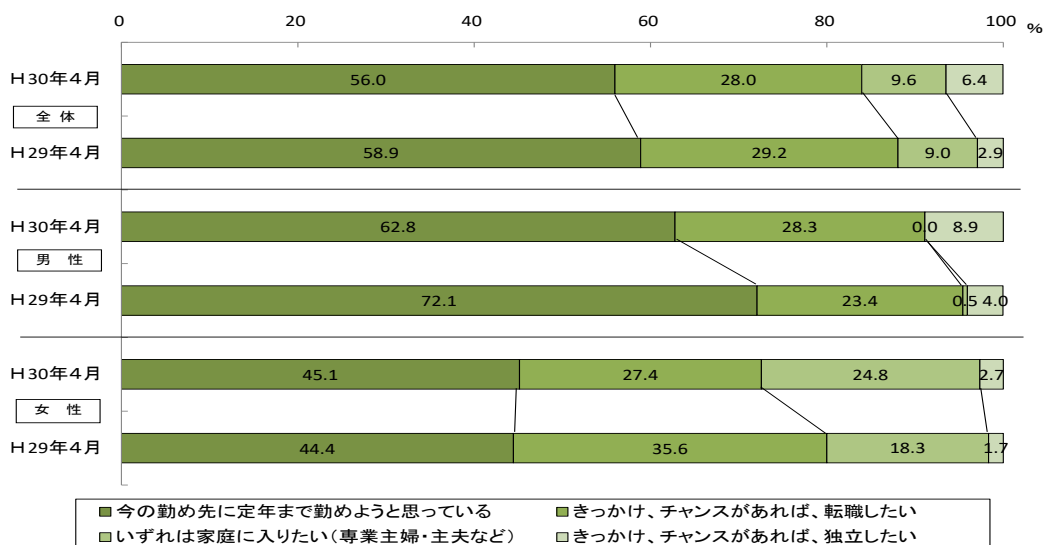


<定年まで今の勤務先で働くか>

○今の勤務先で定年まで働きたいが減少

定年まで今の勤務先で働きたいと考えるかについては「定年まで勤めようと思っている」が5年ぶりに低下し56.0%（同2.9ポイント減）となり、以下「きっかけ、チャンスがあれば転職したい」が28.0%（同1.2ポイント減）、「いずれは家庭に入りたい」が9.6%（同0.6ポイント増）、「きっかけ、チャンスがあれば独立したい」が6.4%（同3.5ポイント増）となった。

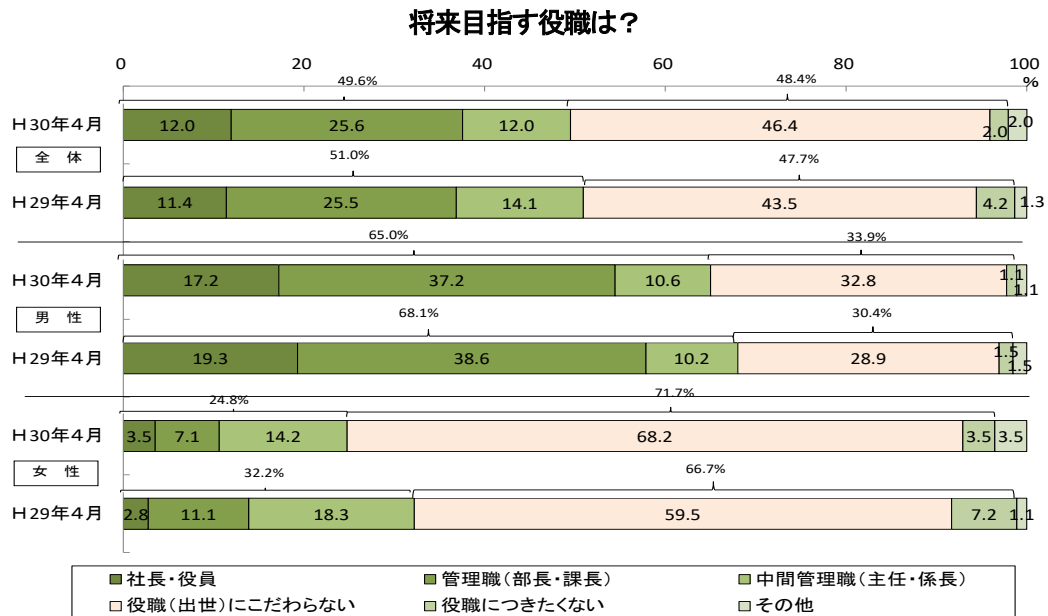
定年まで今の職場で働きますか？



<将来目指す役職は？>

○男女ともキャリア志向が弱まる

全体では「中間管理職以上を目指す」が49.6%（同1.4ポイント減）と過半数を割り、「役職（出世）にこだわらない」が46.4%（同2.9ポイント増）など役職（出世）に執着しない割合が増加した。男女別では中間管理職以上を目指す割合は男性が65.0%（同3.1ポイント減）に低下し、女性も24.8%（同7.4ポイント減）と3割を切っている。



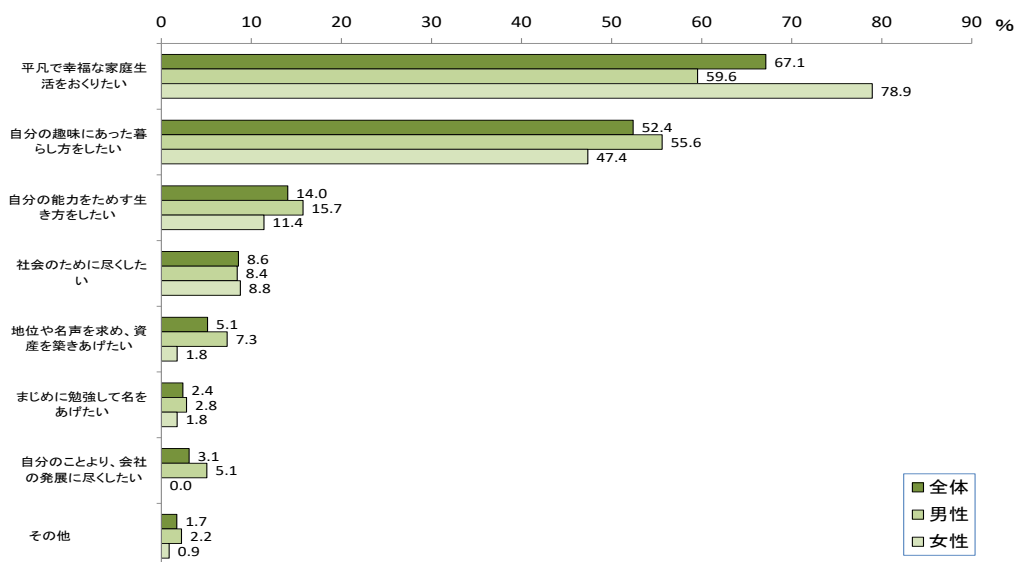
2. 生活観

<理想とする生き方>

○平凡で幸福な家庭と趣味にあった暮らし方

理想の生き方については「平凡で幸福な家庭生活を送りたい」が67.1%（同7.2%増）と最も多く、次いで「自分の趣味にあった暮らし方をしたい」が52.4%（同5.9%減）と、この2項目で大宗を占めた。男女とも「平凡で幸福な家庭生活」が増加する一方、「自分の趣味にあった暮らし方」が低下している。

理想とする生き方（2つ以内の複数回答）

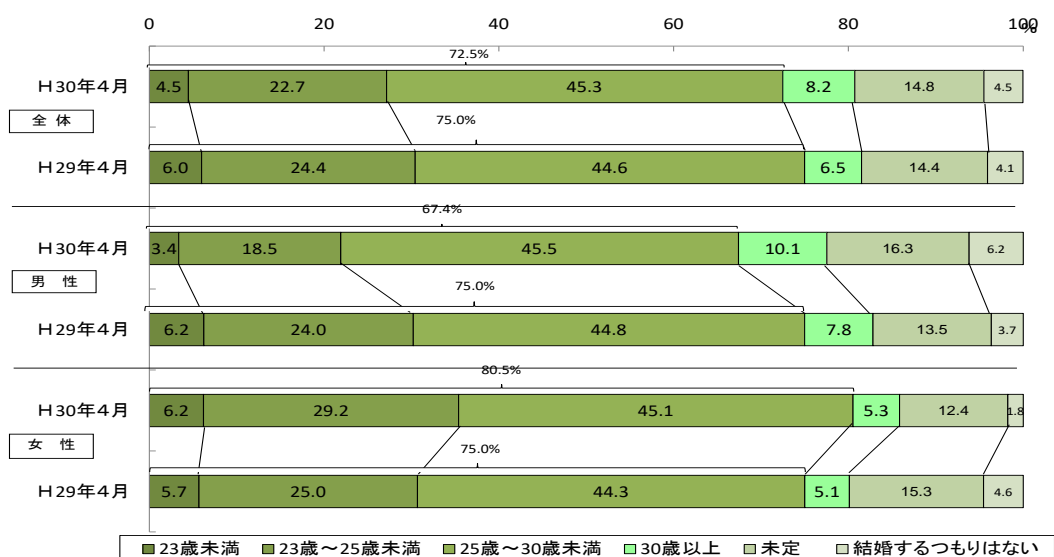


<結婚について>

○30歳までの結婚希望は男性で低下し、女性は上昇

何歳ぐらいで結婚したいかに対し、「25歳～30歳未満」が45.3%（同0.7%増）、「23歳～25歳未満」が22.7%（同1.7%減）、「23歳未満」が4.5%（同1.5%減）と、30歳まで結婚したいと考える割合は72.5%（同2.5%減）と2年ぶりに低下した。男女別にみると、「30歳まで結婚したい」と考える割合が男性で7.6%低下した一方、女性は5.5%増と、3年ぶりに上昇した。

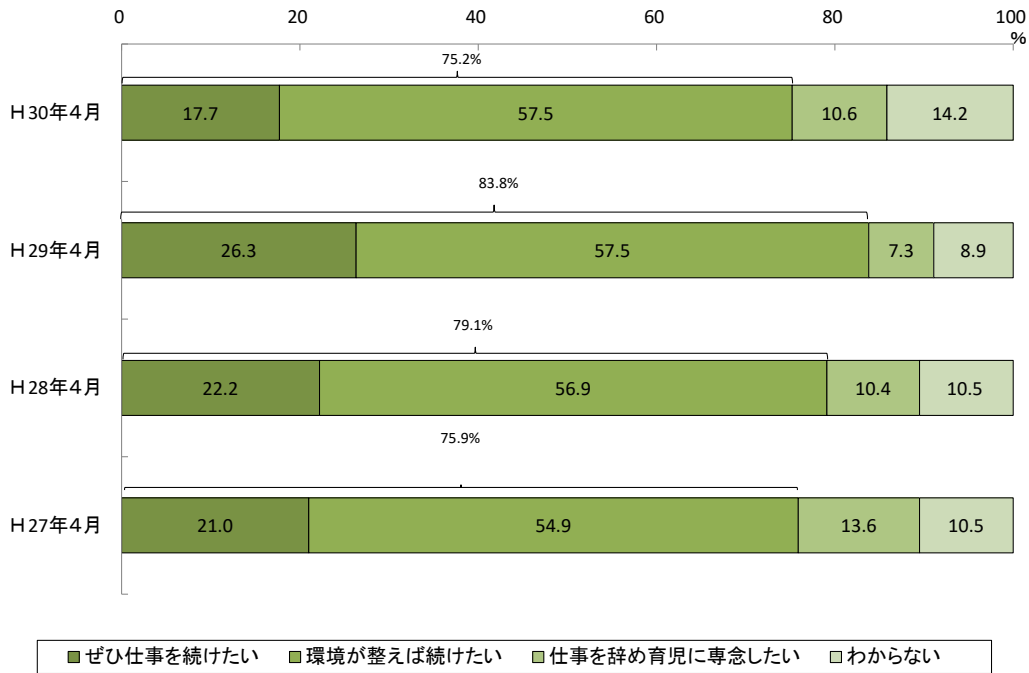
何歳ぐらいで結婚したいと考えていますか？



○女性が出産後も仕事の継続を希望する割合が低下

女性の回答者に出産後の仕事について尋ねたところ、上昇傾向にあった「ぜひ仕事を続けたい」が17.7%（同8.6%増）となった一方で、低下傾向にあった「育児に専念したい」は10.6%（同3.3%増）と上昇した。「環境を整えれば続けたい」は57.5%と前年と同値となった。

出産後の仕事の継続(女性に対し)



まとめ

調査結果をみると、今年の県内新入社員の就職活動は売り手市場にありながら男性で厳しさが強まった。これは、大学を除いた高校・専門学校などの卒業生で前年より厳しいと感じた人が増加したため、業種や地域などの希望が叶わなかったケースが増えたものとみられる。

また、今回の調査では、男女間における明確な意識の差がみられた。女性は、職業観では勤務先選択に際し労働条件を重視し、仕事と生活の両方を大事にする割合が男性に比べて高いほか、生活観では平凡で幸福な家庭生活や具体的な結婚目標年齢を決めている割合が男性に比べて高いものとなった。さらに、女性は職業観では役職（出世）にはこだわらず、いずれは家庭に入りたいとする割合が前年に比べて高まったほか、上昇傾向にあった出産後の仕事の継続が低下するなど全体的に仕事より家庭を優先する職業観、生活観が強まる結果となった。ただし、出産後も環境を整えば仕事を継続したい割合は高止まっており、企業における出産や子育てへの支援体制の強化が望まれる。

人手不足が叫ばれるなか、各企業においては長期的な人材育成のビジョンを描くなかで、社会人として第一歩を踏み出す新入社員一人一人の将来的な成長に向け、長い目でみたキメ細やかな指導がなされることを期待したい。

以上